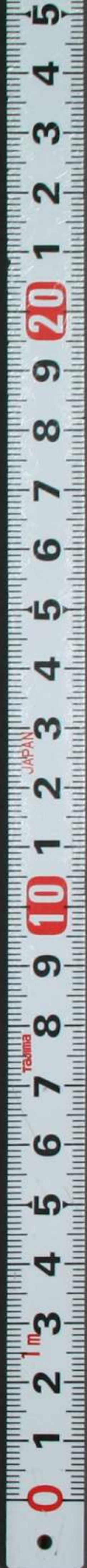




兜勇阿伏倉日記
 初編
 三

阿伏倉

遠
 883
 3



明遠 3
883
卷 3

忠勇阿佐倉日記初輯卷之三

東都

松亭金水編次

明治二十二年
七月十日
購求



第五

朋友と励まして當吾黄金と調ふ

檢非違使の廳小喜代平と救ふ

再説當吾の乃と急ぎ。かの勝間田の重兵衛が家小あつてと進を防ふ。
形重三郎の子舎小在とて心小熱びつらち色まじりて何やん物の
中と操廢げて在ける。まことまよりま出て送の當宿めよと來あひ。と
元振ありてその披露不來ませし。その生憎家小在とて。袴と失るひい
ひぬまは後親の重と清の熱ひくしてまら。一由兼の是ど在下の穽
不終まて汚ゆせひ。許させし。徳あり。よれた社吏ふあり。あひ。い

此方へと進めらるるも上座に着て快かの書藉を願て在る
知るまじく弘福寺の禪師小松ひいさ書藉もまびらど元尾尤の
緩くて更に通曉をさるる偏小督老の空学同知りこと半由り
さび重三弟のち取揚て然るひひひて祝いのいまで器量と試とご
まど足下今の博學あるひいとい人のいなる能あるを凡と強んま
お強めんと心程の奥床と松濱さまを貴客の微笑戯るるも博
学まごふて心と痛まぬまぬとわうくぬるるとの折侍女茶とて来
てまゝ菓まぬると持来るなど小童二弟の初とて侍女小何を低語
座お後まぬ貴客の祝す哥とあるは構ひある今も海と来り
今日の御暇と得まぬが哥と訪て緩くと抱括をせんりのこととひて来

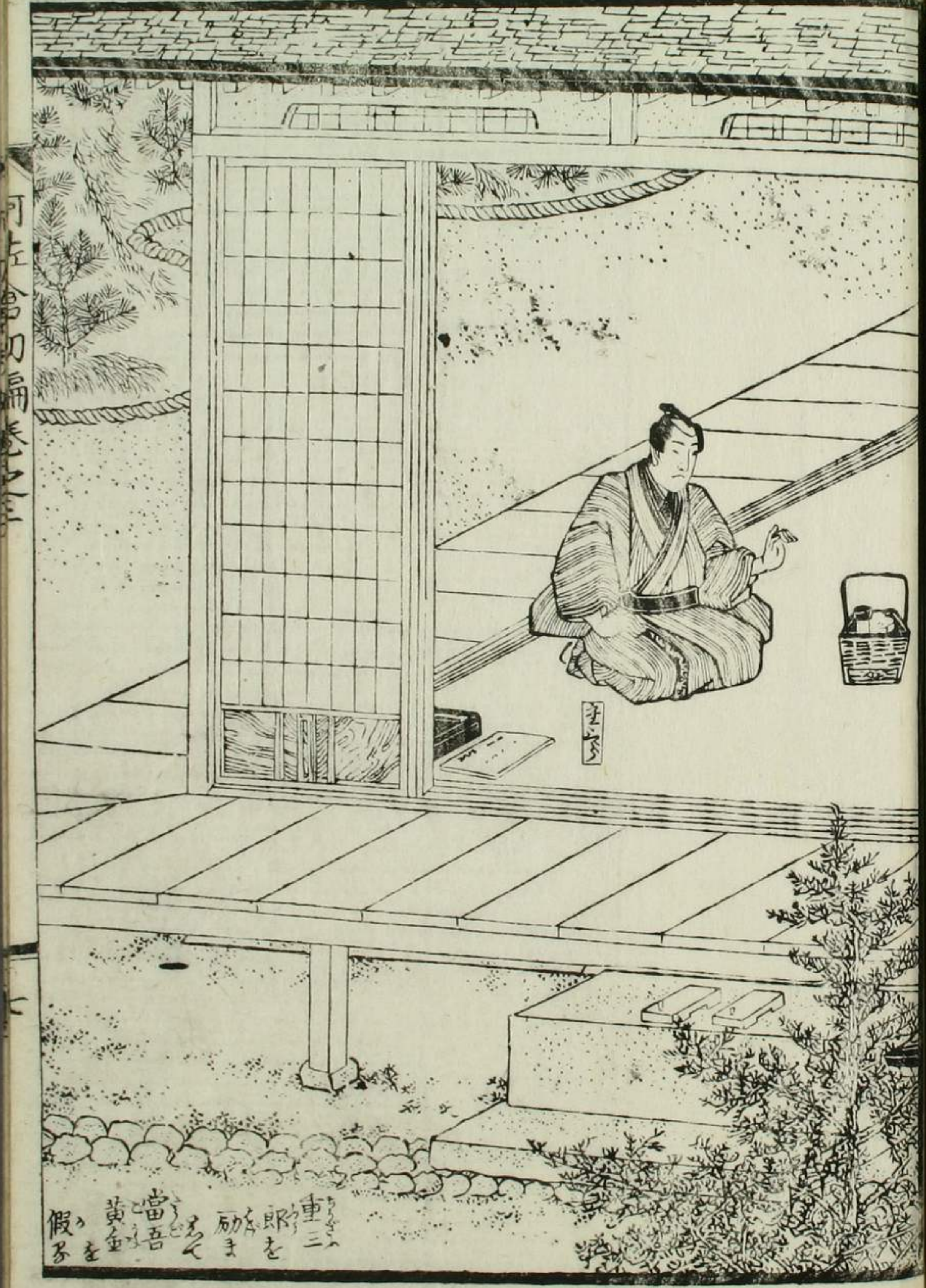
とわかかくと心と配ひぬひての甘くとあつとと人び重とらち笑ひ
今朝も醒ひ蕎麥あまむとま温めて進らせとひひるの何あ皮
まの寛と晩景まを滑りぬと懇おも茶と進め菓子と使と程空
八方の響と響くゆと移まると酒殺ると取柄への侍女のち祝
あぞ貴客のこも祝を顔と接とむむと在りや篇あり止りまじしれえ
来酒と響まぬがひひと云々のみくうとのみ重の微笑は是成のと然
るふ辞もぬとああるんて祝成朋友の出合のと酒さあつてその祝
志との酒さあはゆる実お百穂の倉ありと故人のひひも宜るまを来と
一盃四杯のめとめとめとめと二酒杯と飲やと小膳の肴あり
ありかくて貴客の種との話説の序ありひらるる凡て世間の懐りとて酒

小うそ。昨日捨非遠使の官人等召懼して性力との人元來その才の悉く
小あつねど。その辨の代二百金を購ひて。獄舎小下。生死存亡計り
あるまじ。脱不又る。愛丸未の。昨夜彼処へ由さ。向ひて。その邑の甲乙と
高深。一息と極。奉。輝の懸る人。御い。御家。御見の。秋。そのい。人も
更あり。平。は。と。憐。候の。在。代。平。る。ま。は。集。金。者。人。毎。に。多。く。憐。れ。て。手。腹。を。せ
どの大金の。ま。ま。お。ゆ。と。ゆ。珍。方。方。う。ら。不。於。て。こ。も。又。も。太。く。胸。を。の。恨。ま。れ
りの。金。根。の。猶。力。不。及。を。比。ひ。つ。小。由。て。渠。を。破。入。使。御。の。あ。は。計。す。を
ん。上。と。云。は。あ。う。て。懸。る。小。是。下。が。父。世。の。重。き。未。大人。の。人。の。知。り。し。る。財
主。あり。ま。ま。危。急。の。時。不。及。び。て。他。不。能。ら。ん。人。の。知。り。し。る。財。主。と。云。は。特。に。こ。ん
と。快。と。と。懸。く。ま。う。こ。も。是。下。う。と。家。言。の。大人。小。の。こ。も。ま。ま。を。せ。あ。は。懸。り。の

ある。奉。代。平。親。見。が。為。の。再。生。の。恩。人。也。申。也。こ。の。徳。を。長。く。後。
奉。つ。ん。こ。の。こ。も。の。あ。は。と。云。は。と。解。義。も。あ。げ。お。ひ。ら。と。云。は。す。り。心。の
元。來。悋。慳。老。又。新。也。貯。へ。る。其。金。を。今。令。不。換。て。惜。める。財。主。や。と。云。
り。て。人。命。を。救。ふ。ま。う。の。功。の。あり。と。も。あ。く。小。能。り。と。粗。之。の。狀。の。心。と。云。は。
の。の。う。と。云。は。御。救。と。云。は。人。の。陋。志。む。う。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。
か。う。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。
十。八。九。の。懸。へ。る。ん。然。る。ま。ま。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。
の。目。の。朝。之。の。若。老。也。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。
が。う。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。
が。居。る。人。等。り。て。を。い。ひ。の。う。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。と。云。は。

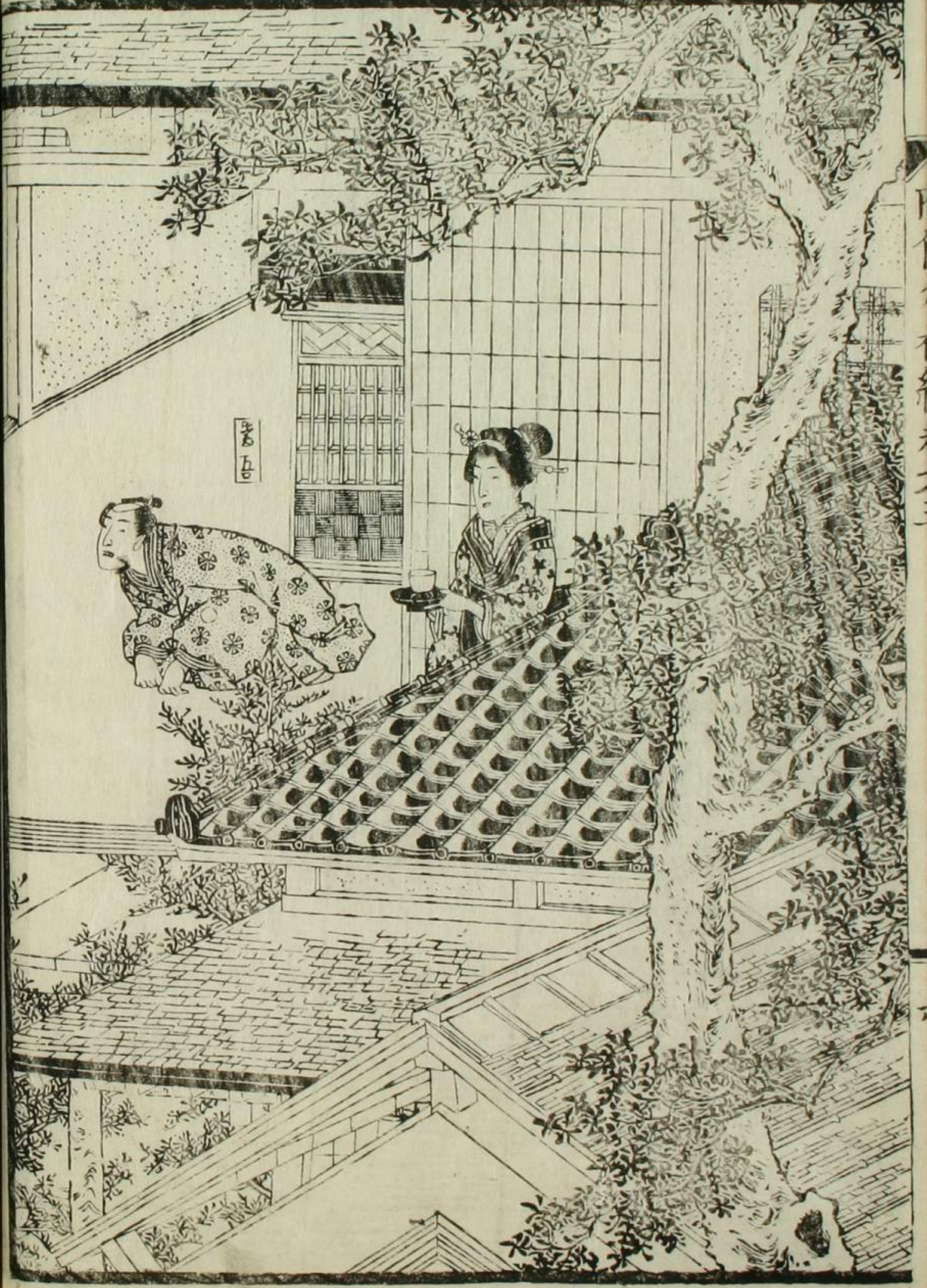
して。とて。清以とて。揮り。つ。小。も。そ。の。代。平。が。身。小。羅。り。る。身。ひ
 小。その。澤。家。の。見。の。身。あ。つ。て。の。惟。と。て。と。と。と。秋。さ。ん。然。と。の。う。く。心
 う。そ。よ。惟。初。あ。ぬ。二。包。の。大。金。と。把。聚。む。る。自。身。う。為。さ。ん。人。小。任。を。為。す
 故。小。逐。雷。さ。ま。今。そ。の。美。金。と。購。ひ。て。掛。非。遠。使。へ。召。さ。す。と。思。ふ。の。り
 ろ。い。の。ひ。あ。り。偏。小。惟。情。の。死。と。妻。の。自。天。の。あ。ん。計。ら。ひ。あ。り。然。等。と。已。世。さ。り
 其。の。美。金。の。持。と。も。皇。天。の。罪。一。あ。と。曲。て。救。え。彼。と。等。一。罪。と。獲。べ。究
 降。ろ。う。ま。筆。の。て。ら。ん。び。吹。ぬ。態。と。て。漫。小。身。出。と。せ。ぬ。と。倍。あ。れ。あ。の
 すと。り。て。愛。言。小。の。程。う。く。汝。あ。る。と。と。理。非。と。混。と。心。得。難。小。事。と。非。と。流
 一切。義。引。さ。ぬ。あ。け。は。い。ま。と。非。の。案。小。あ。い。ま。と。い。の。術。も。あ。ま。り。し。が。如。く
 ハ。愛。言。の。来。ら。ん。と。そ。の。回。答。小。と。入。愛。感。あ。り。と。あ。ら。う。と。傳。さ。り。傳。せ。作。さ。る

延。及。理。小。他。と。と。他。と。救。之。已。が。身。の。死。と。あ。る。と。あ。ら。う。と。代。畢。奇。人。文。能
 他。の。心。小。の。渠。小。伏。と。も。あ。り。く。小。邊。下。の。始。り。と。物。さ。ら。ぬ。小。倍。と
 る。と。あ。り。百。と。あ。る。あ。ぬ。あ。ぬ。小。須。屋。の。然。も。あ。ら。う。と。邑。上。中。下。と。こ。こ。小
 顔。と。て。代。平。の。その。下。能。の。方。小。居。と。い。支。死。も。あ。ら。う。と。愛。言。の。始。と。し
 と。是。小。拘。り。る。人。も。多。く。任。言。須。屋。の。購。ひ。得。た。と。も。愛。言。為。渠。案。等。が。藤。原
 と。と。さ。開。の。在。下。が。債。負。て。も。計。ら。ふ。け。は。先。も。か。く。も。貸。一。供。え。あ。の
 ほど。愛。言。又。も。の。あ。ら。ぬ。と。二十。余。代。相。続。り。任。小。の。草。創。の。家。筋。の
 是。人。も。重。ん。だ。且。ま。と。そ。の。身。も。自。う。言。慢。と。あ。ら。ぬ。と。も。上。小。さ。さ。さ
 人。あ。け。は。地。臥。の。ぬ。く。と。い。候。と。て。他。と。惟。一。の。悔。と。る。氣。あり。存。り。の。こ。小
 三代。所。謂。彩。衣。の。と。い。ふ。愛。言。あ。ら。う。と。肩。と。並。べ。物。案。ら。ふ。と。さ。家。柄。あ。ら。う



河合の編み

重三郎 磨子 當吾 黄金 假子



下谷の編み

由積と書て万民鼓腹の樂あり。是は朝倉の所の能事なり。松本内林ハ
 年々の新設月十九日の祭の禮を行ふとも世間様一からざるは、その
 終と願ふ所のありて敢て賑ひのことも有り。例祭所あり相撲が成ひ
 具は成ひの慶に神威も高く衰へらふ。今年ハ昔より多し。其の
 恒例不復えんと花井當左衛門と始り。その勝色のこと取て、
 旗のハ掛けは、春若のいと熱びて、當右忠孝重なる所等と。その
 旗の改とて。そのことを儀あり林と社の祭の例も、一番ハ、
 二番ハ相撲、三番ハ雜合せ。四番ハ田樂、五番ハ邑の練物と出。その
 客も少く不似。朝倉のハ二三里が不どと練歩めを、終り。然れど
 雜合せの先年、長く停止あり。是は田樂もその以度まで是と好むの構
 是ハ是と省きて、跡は所の三番と、り、
 是も不似、
 々を在へ通達と、その人と集あり。邑の練物ハ、その世の風俗不
 或ハハ、
 拍子の歌と摸。鬼せよ、移せよと、林と月の初旬より、
 祥後とのこと、
 是ハ是と省きて、跡は所の三番と、り、
 是も不似、
 々を在へ通達と、その人と集あり。邑の練物ハ、その世の風俗不
 或ハハ、
 拍子の歌と摸。鬼せよ、移せよと、林と月の初旬より、
 祥後とのこと、

是ハ是と省きて、跡は所の三番と、り、
 是も不似、
 々を在へ通達と、その人と集あり。邑の練物ハ、その世の風俗不
 或ハハ、
 拍子の歌と摸。鬼せよ、移せよと、林と月の初旬より、
 祥後とのこと、

第六
 朝倉の祭祀角舐真行
 蒲密小虎次郎と恋う

再説その日ありけは、松本内林の室あり、世の幕うちまひ、
 音樂のあり、伶人、
 是ハ是と省きて、跡は所の三番と、り、
 是も不似、
 々を在へ通達と、その人と集あり。邑の練物ハ、その世の風俗不
 或ハハ、
 拍子の歌と摸。鬼せよ、移せよと、林と月の初旬より、
 祥後とのこと、

始^ハ多^ク考^ヘ於^テ輪^ヲ掩^シとして心^ヲ耳^ヲと澄^シま^シ。凄^ク切^クとして漫^ク不^レ感^スと懼^スす^ル。
 こ^ノ不^レ集^ル會^スる村^ノ老^ニ漢^ニと^シて不^レ法^ノ濁^ル只^レ律^ハ分^ル秘^トと^シて大^ニ不^レ聖^ニ王^ノの製^スる^ル。
 和^シ樂^ノの音^ハ声^ハ人^ノ心^ヲと和^シ合^ス。以^テ低^シと眼^ヲと閉^シて陸^ノ喜^ノの淚^ハ臉^ハ不^レ滿^スその
 始^メの妻^ハ庭^ノ樂^ニと^シて一^ニ名^トと夏^ノ風^ノ樂^トの^ハ位^ハ中^ニ和^シ途^ハ初^メ大^ニ固^ニ麻^ニ。
 勅^シて奉^リりて作^ル所^ハの次^ハの胡^ノ蝶^ノ樂^トと^シて延^喜の^ハ内^ハ不^レ城^ヲ守^ル忠^ノ房^ノ的^ト。
 後^ノの作^ルら^シと^シて人^ノ所^ハと^シて^ハ。第^ニ番^ノの還^ル城^ノ樂^ト遠^クの唐^ノ竹^ノの樂^ト而^テ神^ノ樂^ト。
 社^ハへ還^ル幸^ノの節^ハ奏^スと^シて^ハ。三^ニる^レを^シ神^ノ樂^トと^シて出^スる^レに^テ終^ル不^レ多^クて^ハ。こ^ノを^シ奏^ス。
 群^ノ集^ルの^ハ時^ハと^シて後^ハの^ハ宮^トと^シて^ハ。確^シま^シる^レ不^レ傳^スえ^シて^ハ。佛^ノの^ハ不^レ在^スとの^ハ。
 多^ク遊^ル陵^ノ頌^ハの^ハ。暢^クる^レ声^ハ由^テこ^ノま^シ不^レや^ハの^ハ傍^トと^シて^ハ。人^ノ不^レ在^スま^シる^レ情^ハの^ハ草^ト。
 本^ハ由^テこ^ノま^シる^レ不^レ系^トと^シて^ハ。低^シに^テ花^ノ會^ハを^シ歎^スむ^レ不^レ聚^スる^レ。梁^ノの^ハ塵^ハと^シて^ハ。初^メく

を^シる^レ不^レ考^スの^ハ。神^ノの^ハ納^ル受^スま^シる^レま^シる^レと^シて^ハ。難^クひ^アく^レぞ^シと^シて^ハ。か^クて^ハ。
 樂^ノの^ハ果^ハけ^シと^シて^ハ。是^レを^シる^レ相^ノ撲^ハあ^シと^シて^ハ。お^シ日^ハを^シる^レ。土^ノ儀^ノの^ハ補^ル理^ハ古^ノ例^ト。
 任^ス。十六^ニ儀^トと^シて^ハ。因^テ而^シて^ハ。その^ハ。任^ス。又^ハ。尺^ノの^ハ。東^ノ酒^ハ不^レ片^ヲ及^スと^シて^ハ。建^ス。こ^ノを^シて^ハ。力^ハ志^ハの^ハ。
 中^ニを^シる^レ。その^ハ。日^ハの^ハ。司^ハの^ハ。素^ノ袍^トと^シて^ハ。股^ヲと^シて^ハ。取^リて^ハ。中^ニ央^ニ不^レ踏^スま^シる^レ。東^ノ酒^ハの^ハ。力^ハ志^ハの^ハ。
 と^シて^ハ。呼^ビ出^スひ^アす^レの^ハ。宮^トと^シて^ハ。最^ニ重^クあり^シ。む^シて^ハ。あ^ノの^ハ。例^トと^シて^ハ。指^ハめ^シあ^シる^レ。一^ニ番^ノ勝^ハ負^ハその^ハ。勝^ハ。
 考^スと^シて^ハ。擇^ル。一^ニを^シり^テ。對^シ身^トと^シて^ハ。定^ムめ^シあ^シる^レ。勝^ハ負^ハと^シて^ハ。方^ハへ^テ。負^クる^レ考^スの^ハ。引^キて^ハ。入^ル。
 勝^ハる^レ考^スの^ハ。土^ノ儀^ハ不^レ在^ス。次^ハる^レ考^スと^シて^ハ。對^シ身^トと^シて^ハ。斯^クの^ハ。ゆ^クと^シて^ハ。引^キ続^ク。二^ニ番^ノ共^ニ不^レ勝^ス。
 考^スと^シて^ハ。第^ニ一^ニの^ハ。最^ニ重^クと^シて^ハ。神^ノの^ハ。不^レ飾^スと^シて^ハ。お^シ日^ハを^シる^レ。考^スと^シて^ハ。把^テて^ハ。こ^ノを^シて^ハ。不^レ興^スえ^シ。且^ハ。其^ノ。某^ノ。某^ノ。日^ハ。誰^ハと^シて^ハ。不^レ贏^スと^シて^ハ。東^ノ山^ノ。及^ス。身^ノの^ハ。力^ハ志^ハと^シて^ハ。移^ル。以^テ。考^スと^シて^ハ。不^レ死^ス。と^シて^ハ。神^ノの^ハ。不^レ架^ス。
 考^スと^シて^ハ。然^レも^シて^ハ。其^ノ。場^ハへ^テ。出^ル。日^ハの^ハ。こ^ノを^シて^ハ。一^ニ世^ノの^ハ。業^トと^シて^ハ。成^ル。以^テ。精^ハ進^ス。潔^ハ斎^トと^シて^ハ。考^スと^シて^ハ。不^レ死^ス。

一斬獲して最多とあることを求む。かくて進んで呼出。數十番の勝負さぬぐ之
 借勝相撲六十名と擇とてことごとく左右小領ち。東西あつく三千人宛り
 籠とめて對身を定め。第一番より幸ひまゝふ成ひのふお小勝とのいど由。其
 次ありかあるが負る。まゝの二人と抛るといど由。二番も小負てひき。最多と
 すべき考のあかくて進んで抵ひりてゆれ。東の方よりまゝおる大熊といへる大か
 へ。双純子の禪と緊とまめて。冷とまゝおるまゝが對身ゆ。西の方よりまゝ出
 て。相お小敢り。負てその次ある對身お小こま。由負り。まゝお大熊と
 為。体揚とて屈まるとまゝ。かくて今日の取とも。この大熊小究まら
 ず。と密くのいお堅まを天を。對身を怒ら。祝居る處。西の方より冷
 とまゝおと。祝ふるふらの人のそのひ天神の雷を。相とて。浪速小名。まゝ使客
 の股肱の目のいおまゝ。荒勢といへる。身の丈七尺力。腕まを強く。ま
 小方ま不盡あり。悠然とて土俵小漸く。五大熊力。松がえり。のち
 後ま入とてまゝ。不及びぬ。このまゝ。已も相撲の旗小在。て。まゝ
 見れ。まゝ。對身小罷。まゝ。十八のま。此小由。相持の旗あり。と
 死。まゝ。まゝ。授あれ。のふ。大熊。打。笑。ひ。揚。願。の。時。の。運。小。ま。ま。力
 量。ま。ま。の。旗。の。巧。拙。小。様。へ。ま。將。勝。負。と。比。ん。と。双。方。向。眼。へ。ま。對。ひ
 び。可。が。索。解。と。引。と。ま。一。申。ま。の。い。引。組。ま。見。抱。の。儀。人。ま。ま。と。ま。ん。て
 大熊。の。の。ま。ま。続。く。の。の。大。力。ま。双。深。一。人。あ。ま。ま。ま。ま。朝。倉。の。相
 撲。小。能。く。他。小。の。老。の。儀。と。難。と。ま。源。遠。小。ま。ま。の。ひ。ま。ま。の。荒。勢。小
 負。ま。ま。の。身。ま。ま。の。辱。ま。ま。の。朝。倉。の。の。名。お。ま。ま。の。嗟。大。熊。上。原。の。ま。

同左合切編卷之三

と交う。腹をばり。多初渡り。腰捻り。手とひて。荒勢
 の大勢と云懐のま中へ。抛つ。まが。え。初一回。出と。声あげ。若勢。ま。と。怒
 傷も。荒勢。の。笑。と。合。と。来。不。修。や。眩。う。ち。液。て。對。牙。や。あ。つ。と。入。と。ひ
 処。不。あ。折。山。と。名。と。来。う。け。踊。す。い。つ。の。修。勢。の。玉。蜻。蛉。と。の。入。す。所。の。飛。也。
 ち。の。脊。恰。好。而。繞。荒。勢。も。あ。ら。ぬ。が。力。足。踏。て。進。こ。よ。ま。が。ひ。り。月。の。これ。が
 名。と。披。露。と。修。不。荒。勢。と。取。紐。も。来。不。方。ら。ぬ。力。量。あ。つ。て。成。ひ。の。除
 成。ひ。の。突。捷。秘。術。と。つ。け。回。景。勢。の。月。是。く。も。ま。の。潔。一。這。回。の。勝。負。の
 何。あ。と。勝。目。せ。び。祝。う。わ。う。あ。折。山。の。い。り。び。由。内。擦。ふ。か。け。ら。ま。て。堪
 へ。ま。す。処。へ。若。彼。削。せ。び。對。牙。の。つ。え。お。一。室。不。吐。と。交。と。ぞ。揚。う。る。か。て
 荒。勢。の。友。個。も。ぞ。も。人。が。ま。う。不。投。ま。ま。の。と。や。あ。上。の。對。牙。の。あ。い。し。と。は。方。と

備。と。う。ち。腹。溜。い。と。修。で。う。不。對。居。う。殊。ま。る。者。の。こ。ま。成。從。て。降。し。不。思
 へ。る。大。勢。の。こ。ろ。水。折。山。と。又。初。の。ぬ。い。然。ま。の。熱。出。う。る。と。も。只。辱。ま。る
 の。こ。ま。ま。が。出。ぬ。方。と。修。と。今。の。維。と。そ。對。牙。不。ま。あ。ぬ。と。い
 り。の。あ。手。奥。り。司。の。い。方。と。祝。返。う。荒。勢。既。不。二。番。の。勝。負。あり。維。あ。ま
 對。牙。あ。り。て。今。一。番。勝。あ。る。が。今。日。の。最。手。と。う。べ。一。斬。と。あ。ぬ。り。と。ま。も。の。及
 ぶ。ぬ。と。を。曉。す。對。牙。不。あ。ぬ。人。あ。る。の。二。番。勝。と。し。て。最。手。と。做。さん。や。双。方。の
 衆。中。う。評。議。志。て。速。ふ。回。答。あ。ま。と。言。交。不。呼。の。ま。と。由。維。と。て。出。入。と。の。不
 り。の。あ。腕。の。荒。勢。と。り。て。今。日。の。最。手。と。定。め。ん。と。ま。折。ま。が。侍。交。在。下。が。一。番
 對。牙。不。あ。ぬ。と。ぞ。と。の。い。の。あ。つ。と。ま。量。し。人。の。こ。ま。と。祝。う。ま。が。是。ら。人。言。腹
 の。虎。次。弟。と。て。ま。が。十。八。才。の。後。角。あり。這。の。あ。ら。ま。と。維。も。若。伏。次。を。勝。と

のりなり形平さきり相撲ほど取とる。華衣風流のこをねて。親あひま
 る。あひまあふねど。言浪色の長きま。いふ。自來船と掛とす。虎次郎の
 小在て。たききま。とて集めり。後とて。あふの。集こと。い。然ま。と。年。小。似。れ
 る。脊。い。ふ。天。七。八。寸。さ。白。く。る。て。膚。い。肥。さ。り。その。客。人。並。み。ま。ま。と。か。の。荒。勢。
 小。競。て。て。六。松。小。さ。ち。茲。が。若。樹。の。樓。虎。の。あ。る。免。の。ぬ。く。多。く。對。面。ま。く。も
 あり。初。人。毎。小。虎。次。郎。が。志。こ。を。殊。勝。ま。ま。い。ら。せ。う。集。小。故。ま。ま。と。能。お。祭
 の。角。觥。の。最。多。と。他。も。あ。ん。が。悔。し。ま。小。令。を。捨。て。由。荒。勢。を。逐。逐。ぞ。り
 う。張。あ。り。危。あ。り。く。と。嘆。く。あ。ま。が。祝。兼。て。ま。ま。が。袖。と。ぬ。き。止。ま。り。ね。と。の。あ。の
 由。あ。り。然。ま。と。も。虎。次。郎。の。頭。を。揮。の。こ。お。い。さ。い。衣。必。さ。腕。バ。何。時。の。あ。り。小。准
 い。儀。志。さ。り。女。緋。純。子。の。禪。と。堅。く。結。び。つ。餘。り。て。衣。へ。よ。る。あ。骨。柄。を。健

あり。天。晴。力。士。と。い。ふ。さ。う。と。ま。ま。と。其。年。十。八。の。人。筋。骨。い。ま。堅。ま。り。ひ
 争。荒。勢。も。及。ぶ。と。い。ふ。や。と。命。も。小。河。を。振。り。あ。り。虎。次。郎。の。此。由。勝。せ。り。力
 足。と。端。均。と。ま。ま。い。ん。と。傲。し。ま。い。行。司。の。傍。へ。ま。り。て。名。を。い。何。と。い
 ら。と。い。ふ。虎。次。郎。の。考。へ。て。角。觥。と。取。り。ま。あ。り。ま。り。名。を。ま。ま。の。い。ま。ま。い。ま
 ら。び。名。と。虎。次。郎。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。虎。が。嶽。と。い。呼。ぶ。人。名。の。い。ま。ま。れ。持。ま
 せ。ひ。地。不。保。細。の。あ。り。ま。ま。と。い。ふ。い。筋。大。膽。ま。ま。と。い。ふ。荒。勢。の。足。と。い。ふ。の。い
 和。邦。よ。ま。ま。長。し。一。様。で。ま。ま。と。い。ふ。長。人。と。い。ふ。構。へ。と。い。候。筋。小。虎。次。郎。の
 虎。か。嶽。の。備。力。足。投。回。端。均。と。い。ふ。と。い。ふ。對。面。ま。く。と。か。ら。折。り。行
 司。の。ま。ま。扇。と。ひ。げ。申。と。い。ひ。さ。ら。荒。勢。が。ま。の。中。階。を。揮。と。い。ふ。突。倒
 さ。ん。と。揮。身。の。筋。力。と。腕。小。ま。せ。て。拵。ま。ま。と。い。ふ。荒。勢。の。此。由。初。う。び。虎。が

嶽の野上より右よりと伸くとと把下。引きて土俵の外へ抛り出さんと
 する処と。虎は嶽の足踏る處。體と拵りて荒物など。腰の番と丁と打て
 まへ用はく荒物など。倭儉所と筋力と究め実々と引けば四ッ返り土俵
 の奥中へ平伏す。揚負のふと踏ざと視居る人御一宿ふあひびも
 髪を挙げ言頭の哥や出来し。這の勝角触の花どとて。各々不衣裳
 と脱ぎ掛け。土俵と目掛けて抛り出。衣敷し帯のさすふのいへは女ハ
 往上方の小袖被さ帽子の一宿ふ把り投りぬのからふ。守るふまき美
 赤白煮む久のふゆ今々不揺さど出さるうらあり。荒物等とてやあめ
 小対身あけさば第一番の最手と心不修すも悔り。さすて小和弁
 小肩さるとさときをあけさとき赤くありまてあつてさゆぬ色のけうち

越め突まるとして入ぬはえ若くもまき突止る。虎が山嶽の爲の事小虎
 ようそけり目もうち對ひ吾荒物等が勝修る心悟さふと對ひたふく
 勝はさうとまこと僅一番の勝角力やていま最手といへば誰小ま
 是出まるとよ三番あて負さる勝さる人小縋らんのとさ來れとのいひ
 きと僅一人おての來び行司の末を四せてその對身を促せと。今
 八人遠巡りて。鬼神のまき荒物等小極く贏る言頭の哥と誰
 又むふりのあん對身あけさば哥の最手あり。日由なを病小傾ら死
 さるふら矢と取らして角触を畢へ疾速物を曳出さんと人のいふあり。
 さるふらといひて神おへ俵ひ是とて今日の最手ありと。仍月の云ふ小辨
 殿小。始る花井當方。場則仲のち矢と欺て虎次形不把らさるを虎



されし。彼人など小嫌さるを配し。いひ月小花のまじり。あつらひ。一対のよは
 こころよ。山更婦あてあつらふと。彼方より人見此方より人見。不仕合ふ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 ひるまひいと惜し。懐こむもこのひに。詠方巧ありあり。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あり。虎泣きおぬも。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 せらあつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 虎泣き。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 人を見。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 春あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。

されし。彼人など小嫌さるを配し。いひ月小花のまじり。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 こころよ。山更婦あてあつらふと。彼方より人見此方より人見。不仕合ふ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 ひるまひいと惜し。懐こむもこのひに。詠方巧ありあり。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あり。虎泣きおぬも。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 せらあつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 虎泣き。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 人を見。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 春あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。

子。折不觸の樂さる。深きと漫不も。どひ迫まひわらう。心苦きことあり。
 是と懸と人いひつら。身あぢも。恥りの。森の。下草あう。あく。小此。日小。今
 日。後。中。夏。時。の。小。麻。を。角。の。木。の。間。さ。ふ。胸。あ。へ。え。灰。今。日。の。後。中。の
 祭。祀。と。て。朝。ま。ご。た。う。振。り。さ。尾。喉。も。初。め。その。祝。も。俱。不。洗。ん。の。ふ。ふ。う。
 若。その。人。の。侍。と。初。ま。う。さ。ふ。の。あ。う。ん。と。心。の。裡。不。馮。心。の。發。化。振。之。法。從。
 不。社。願。不。結。為。樂。の。声。流。三。を。也。徒。畢。王。於。て。角。舐。の。場。へ。あ。る。女子。の。身。
 ぬ。の。然。さ。う。の。興。い。る。け。ま。ご。存。代。平。が。好。る。及。と。核。骨。不。極。引。居。て。初。ま。い。それ。不。
 物。ま。ご。一。瞬。勝。り。初。ま。と。も。あ。ふ。初。て。あ。ま。い。と。ひ。う。け。ず。も。虎。次。身。か。の。荒。草。さ。の
 番。不。あ。う。胸。裏。う。ひ。さ。の。回。不。勝。角。舐。不。さ。う。と。ま。い。飛。ま。さ。う。不。教。ふ。あ。い。
 忠。勇。阿。佐。倉。日。記。初。輯。卷。之。三。畢

忠勇阿佐倉日記初輯卷之三畢

